

申し込んでいない児童にも声かけ

学童保育で「自衛隊体験」

小学校に隣接する神奈川県鎌倉市の学童保育施設で5月、「自衛隊体験」と称したプログラムが行われたことが分かった。敬礼など自衛隊式のあいさつを体験し、中には保護者の了承がないまま参加した子もいたという。隊員不足を背景に、低年齢の子どもを対象とした自衛隊のPRは、適切なのか。保護者からは「歯止めがきかなくなる」と不安の声が上がる。(曾田晋太郎、山田祐一郎、安藤恭子)

鎌倉で先月



子どもたちに配られた自衛隊のメモ帳や、自衛隊装備品を紹介するプリントを眺める父親＝神奈川県鎌倉市で

「広報活動の一環」

鎌倉市の学童保育施設で、自衛隊体験プログラムが開かれたのは5月29日。市などによると自衛官4人が講師となり、小学1〜6年の48人が参加。市職員も立ち会い、屋内で1時間、整列や点呼、敬礼や、船をつなぐロープの「もやい結び」を体験。活動紹介のビデオも見たという。

申込制のはずだったが、スタッフがその場にいた子どもたちに声をかけ、集まった16人も参加。戦闘機や護衛艦の能力を伝えるチラシや、自衛官募集公式ユーチューブにリンクするQRコードが付いたメモ帳などが手渡されたという。

低学年の児童を施設に通わせる父親は、「申し込みはしていない。年端もい

そもそも、どういう経緯で開かれたのか。市によると、指定管理者が企画し、自衛隊神奈川県地方協力本部に依頼した。市内では昨年5月、別の学童保育施設でも、自衛隊の親子体験が行われたという。

神奈川県本所の担当者は

「小学生は自衛官募集の範疇ではないが、私たちとしては要望にできる限り応えたいと考え、職業として知ってもらう広報活動の一環で協力した」と説明。県内で広報・啓発目的の親子向けイベントを開くことはあるが、学童保育や小学校を訪れるの同様の事業は、他に「聞かない」とした。

なぜ必要か 説明不可欠

成長期の子に適切な指導を提供するのは学童保育の使命だ。「時に武器を使う自衛隊を招いて、軍事に関することを子どもが経験する」というのは、一方的な観念を植え付けかねない。平和憲法を持つ国の教育施設として、想像力を働かせないといけない。今なぜ自衛隊体験が必要か、説明する必要がある」と語る。申し込んでいない子が参加した点にも「保護者の教育権に対する重大な侵害とも言える」と苦言を呈した。

中止するよう求める。

名古屋大の中嶋哲彦名誉教授(教育行政学)によると、学校教育法や学習指導要領に基づく学校教育と異なり、学童保育に関して指導を規定する基準はない。ただし「学校教育に比べ自由度があるからといって何をやっていいという話ではなく、自制的でなくてはならない」と指摘する。

父親「知識ない子に適切なのか」

「さまざまな仕事への理解を深め、防災意識を高めてもらう一環。特定の思想を普及する目的で行ったものではなく、適切だった」と回答。申し込んでいない子まで参加させたことについては、「子どものやりたいという意思を尊重したいが、今後は家庭の要望も受け、申し込んでいない子は参加しないようにするなど対応したい」と述べた。

一方で、父親は首をかしげる。「春以降、自衛隊以外の職業紹介はされていない。これが許されれば、次は行進や模擬銃の取り扱いも『知るきっかけ』とされ、歯止めがきかなくなると。まだ知識や批判の力をもたない子どもには、戦争につながるものに近づいてほしくない」と市の責任で

「申し込みはしていない。年端もい